

令和3年6月28日（月）

中体連・コンクール激励会あいさつ

東原摩舎中央校 校長 下村昌弘

- 東京オリンピックまで一か月を切りました。毎回、数々の勇気と感動を与えてくれるオリンピック大会ですが、「世紀の誤審」（一世紀に一度しかないというくらいに間違っただ審判があったこと）として、歴史に刻まれているのが、2000年シドニー大会、柔道男子100キロ超級で銀メダルに終わった篠原信一選手です。
- 篠原選手を知っていますか。現在はタレントとして活躍していらっしゃる人だから、見たことがある人もいることでしょう。
- この試合は、監督やマスコミ、そして日本中の誰もが「誤審」と騒いだ試合でした。今でもネットに動画があがっているので、私たちも簡単に見ることができます。素人の私が見ても「おかしいな、やっぱり審判のミスかな」と感じる試合でした。
- しかし、結果的に2位に終わってしまった篠原選手は「自分が弱かったから負けた」「審判には不満はない」とコメントしました。そして「審判が間違えるような試合をした自分に責任がある」とも語っておられました。
- 人を責めず、自分の弱さを見つめ、負けを認める。
- 人間の本当の価値、強さ、本性は、逆境でこそ試されるものです。こうした篠原選手の姿勢は、人の信頼を集めるものです。だからこそ、今でもタレントとして愛されているのでしょう。
- さて、試合やコンクールは、相手との戦い、競争なので、勝ち負け、優劣は必ずつくものです。しかし一方で、自分の中に立てた基準を越えられたかどうか、他と比べるのではなく、自分が立てた目標を達成できたかどうかという点で自分との戦いでもあります。
- 選手、部員の皆さん、来るべき試合やコンクールに向けて、あなたは何を目標にしていますか。その目標から目をそらさずに、今自分を鍛えられていますか。
- 自分の目標は何なのか、それをもう一度問い直し、つらくなったら、ピンチに陥ったら、逆境に立たされた時こそ、それを思い出して心を奮い立たせてください。
- 健闘を祈っています。みんな頑張り！